

連結貸借対照表

(2021年6月30日現在)

(単位 百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	32,595	流 動 負 債	12,841
現金及び預金	6,181	支払手形及び買掛金	8,809
受取手形及び売掛金	9,529	1年内返済予定の長期借入金	375
商品及び製品	12,150	未払法人税等	310
原材料及び貯蔵品	3,307	ポイント引当金	9
デリバティブ債権	412	その他	3,337
その他	1,015	固 定 負 債	893
貸倒引当金	△0	長期借入金	281
固 定 資 産	10,193	役員退職慰労引当金	83
有 形 固 定 資 産	6,315	リサイクル費用引当金	321
建物及び構築物	2,364	製品保証引当金	71
土地	3,653	株式給付引当金	39
その他	297	その他	96
無 形 固 定 資 産	806	負 債 合 計	13,735
投 資 其 他 の 資 産	3,070	純 資 産 の 部	
投資有価証券	1,173	株 主 資 本	28,255
繰延税金資産	1,620	資 本 金	3,588
その他	292	資 本 剰 余 金	4,642
貸倒引当金	△15	利 益 剰 余 金	21,667
		自 己 株 式	△1,642
		その他の包括利益累計額	611
		その他有価証券評価差額金	230
		繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	240
		為 替 換 算 調 整 勘 定	139
		非 支 配 株 主 持 分	187
		純 資 産 合 計	29,053
資 産 合 計	42,789	負 債 ・ 純 資 産 合 計	42,789

連結損益計算書

(自 2020年7月1日)
(至 2021年6月30日)

(単位 百万円)

売上			56,633
売上原価			46,780
売上総利益			9,852
販売費及び一般管理費			8,514
営業利益			1,338
営業外収益			
受取利息		2	
仕入割引		36	
為替差益		438	
持分法による投資利益		33	
その他		131	642
営業外費用			
支払利息		3	
売上割引		124	
その他		2	130
経常利益			1,850
特別利益			
投資有価証券売却益		0	0
税金等調整前当期純利益			1,851
法人税、住民税及び事業税		583	
法人税等調整額		△134	448
当期純利益			1,403
非支配株主に帰属する当期純利益			23
親会社株主に帰属する当期純利益			1,380

連結株主資本等変動計算書

(自 2020年7月1日
至 2021年6月30日)

(単位 百万円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自 己 株 式	株主資本合計
当 期 首 残 高	3,588	4,600	20,657	△1,190	27,655
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当	—	—	△370	—	△370
親会社株主に帰属する当期純利益	—	—	1,380	—	1,380
自己株式の取得	—	—	—	△548	△548
自己株式の処分	—	42	—	95	138
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	—	—	—	—	—
当 期 変 動 額 合 計	—	42	1,009	△452	599
当 期 末 残 高	3,588	4,642	21,667	△1,642	28,255

(単位 百万円)

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	
当 期 首 残 高	187	227	52	170
当 期 変 動 額				
剰 余 金 の 配 当	—	—	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	—	—	—	—
自己株式の取得	—	—	—	—
自己株式の処分	—	—	—	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	43	13	87	16
当 期 変 動 額 合 計	43	13	87	16
当 期 末 残 高	230	240	139	187

連結注記表

連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

1. 連結の範囲に関する事項

子会社は、すべて連結しております。

連結子会社の数

5社

連結子会社の名称

国際艾歐資訊股份有限公司

艾歐資訊香港有限公司

I-O DATA America, Inc.

ITGマーケティング株式会社

I-O DATA VIETNAM CO., LTD.

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した関連会社の数

2社

関連会社の名称

I-O & YT Pte.Ltd.

クリエイティブ・メディア株式会社

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

(3) たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品・製品

総平均法による原価法

仕掛品・原材料

(貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

(4) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

主として定率法

ただし、当社及び国内連結子会社は、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な資産の耐用年数は下記のとおりであります。

建物及び構築物 3～50年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、主な資産の耐用年数は下記のとおりであります。

自社利用のソフトウェア 3～5年

(5) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

ポイント引当金

顧客に付与したポイントの将来の利用に備えるため、当連結会計年度末における将来利用見込額を計上しております。

役員退職慰労引当金

当社役員の退職慰労金の支給に備えるため、役員退職慰労金内規に基づく要支給額を計上しております。

なお、当社は2005年9月28日開催の定時株主総会終結の時をもって、役員退職慰労金制度を廃止し、同日までの役員の在任期間に対する退職慰労金を支給することとしております。これにより同日以降の役員退職慰労引当金の繰入は行っておりません。

リサイクル費用引当金

リサイクル対象製品等の回収及び再資源化の支出に備えるため、売上台数を基準として支出見込額を計上しております。

製品保証引当金

製品販売後に発生する保証修理の費用支出に備えるため、過去の実績に基づき発生見込額を計上しております。

株式給付引当金

株式給付規程に基づく従業員の当社株式の給付に備えるため、当連結会計年度末における株式給付債務の見込額に基づき株式給付引当金を計上しております。

(6) 重要な外貨建資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物等為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物等為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

通貨オプション、為替予約に係る評価損益は、繰延ヘッジ処理によっております。

ヘッジ手段

通貨オプション、為替予約

ヘッジ対象

外貨建予定取引等の一部

ヘッジ方針

取引権限及び取引限度額等を定めた社内ルールに基づき、外貨建取引の為替変動によるリスクの軽減・相殺を目的として、ヘッジを行うことを原則としております。

なお、取引の契約先は信用度の高い銀行等に限定されており、相手先の契約不履行によるリスクはほとんどないと判断しております。

(8) 消費税等（消費税及び地方消費税）の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

表示方法の変更に関する注記

(「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当連結会計年度の連結計算書類から適用し、連結計算書類に重要な会計上の見積りに関する注記を記載しております。

重要な会計上の見積りに関する注記

(たな卸資産評価損)

(1)当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

売上原価に含まれるたな卸資産評価損 502百万円

(2)連結計算書類利用者の理解に資するその他の情報

①算出方法

たな卸資産評価損は主に低価法評価損と滞留品評価損があり、低価法評価損は実績の正味売却価額と原価とを比較して正味売却価額が下回った場合にその差額を評価損とし、滞留品評価損は保有月数に応じた一定の評価減率を利用して算出しております。

②主要な仮定

滞留品評価損は直近の販売数実績と翌月以降の販売見込数に基づき保有月数を算定し、過去の販売価格の推移を参考に保有月数に応じた一定の評価減率を設定しております。

③翌連結会計年度の連結計算書類に与える影響

低価法評価損は販売価格の影響を受けるため、それらの変動により翌連結会計年度の連結計算書類に影響を与える可能性があります。滞留品評価損については、販売見込数及び過去の販売価格の推移を参考にした評価減率を使用しているため、急激な需要の変化が生じた場合に翌連結会計年度の連結計算書類に影響を与える可能性があります。

(繰延税金資産の回収可能性)

(1)当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

繰延税金資産 1,620百万円

(2)連結計算書類利用者の理解に資するその他の情報

①算出方法

繰延税金資産の計上にあたり、事業計画を基礎とした将来の課税所得の十分性、タックスプランニングの存在の有無及び将来加算一時差異の十分性により回収可能性を検討し、繰延税金資産を計上しております。

②主要な仮定

将来の課税所得の算出は、事業計画を基礎とし、一時差異に係る税効果については、当該差異の解消時に適用される法定実効税率に基づいて繰延税金資産を計上しております。将来において解消が不確実であると考えられる一時差異については、評価性引当額として繰延税金資産を減額しております。

③翌連結会計年度の連結計算書類に与える影響

将来の課税所得の見込額の変化や、その他の要因に基づき繰延税金資産の回収可能性の評価が変更された場合、翌連結会計年度の連結計算書類に影響を与える可能性があります。

追加情報

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、当社の中長期的な企業価値を高めることを目的として、従業員に信託を通じて自社の株式を交付する取引を行っております。

1.取引の概要

2020年11月に中長期的な企業価値を高めることを目的として、従業員を対象としたインセンティブ・プラン「従業員向け株式報酬制度」(以下「本制度」という。)を導入いたしました。

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として信託を設定し、信託が当社普通株式(以下「当社株式」という。)の取得を行い、従業員のうち一定の要件を充足する者に対して、信託を通じて当社株式を交付する従業員向けインセンティブ・プランであります。なお、信託による当社株式の取得資金は、全額当社が拠出するため、従業員の負担はありません。

2.信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、当連結会計年度末134百万円、125,000株であります。

3.総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

該当事項はありません。

連結貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額 4,234百万円

連結損益計算書に関する注記

一般管理費に含まれる研究開発費 1,132百万円

連結株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式の総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	14,839,349	—	—	14,839,349

2. 自己株式の数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,607,511	525,020	129,200	2,003,331

(注) 1. 自己株式の増加525,020株は、自己株式の取得による増加400,000株、「従業員向け株式報酬制度」導入に伴う当該信託が保有する当社株式による増加125,000株、単元未満株式の買取による増加20株であります。

2. 自己株式の減少129,200株は、「従業員向け株式報酬制度」導入に伴う当該信託への自己株式の売却による減少125,000株、「譲渡制限付株式報酬制度」導入に伴う対象者への割当てによる減少4,200株であります。

3. 当連結会計年度末の自己株式数には、信託が保有する自社の株式数が125,000株含まれております。

3. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額

2020年9月24日開催の第45期定時株主総会決議による配当に関する事項

・配当金の総額 370百万円
 ・配当の原資 利益剰余金
 ・1株当たり配当金額 28円
 ・基準日 2020年6月30日
 ・効力発生日 2020年9月25日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

2021年9月22日開催の第46期定時株主総会の議案として、次のとおり付議する予定であります。

・配当金の総額 324百万円
 ・配当の原資 利益剰余金
 ・1株当たり配当金額 25円
 ・基準日 2021年6月30日
 ・効力発生日 2021年9月24日

(注) 2021年9月22日定時株主総会決議による配当金の総額には、「従業員向け株式報酬制度」の信託財産として信託が保有する当社株式に対する配当金3百万円を含んでおります。

税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

繰延税金資産

たな卸資産評価損	263百万円
売上値引	339百万円
未払費用	144百万円
減価償却限度超過額	398百万円
保証修理費	196百万円
役員退職慰労引当金	25百万円
リサイクル費用引当金	97百万円
製品保証引当金	21百万円
その他	925百万円
繰延税金資産小計	<u>2,413百万円</u>
評価性引当額	<u>△404百万円</u>
繰延税金資産合計	<u>2,008百万円</u>

繰延税金負債

繰延ヘッジ利益	△105百万円
在外関係会社の留保利益	△61百万円
固定資産圧縮積立金	△111百万円
その他有価証券評価差額金	△94百万円
その他	△23百万円
繰延税金負債合計	<u>△396百万円</u>
繰延税金資産の純額	<u><u>1,612百万円</u></u>

金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、デジタル家電周辺機器の開発・製造・販売事業を行うための設備投資計画に照らし、必要に応じて資金を調達することとしております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金は自己資金及び銀行借入により調達しています。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。投資有価証券は、主に取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、すべて1年以内の支払期日であります。また、その一部には、原材料等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されていますが、先物為替予約及び通貨オプションを利用してヘッジしております。

短期借入金は、固定金利にて調達しており、主に営業債務決済に係る資金調達であります。

長期借入金は、固定金利にて調達しており、主に設備投資に係る資金調達であります。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引及び通貨オプションであります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等」に記載されている「(7) 重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、債権管理規程に従い、営業債権について、営業部門及び財務担当部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の債権管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、カウンターパーティーリスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

当連結会計年度の連結決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の貸借対照表価額により表わされています。

② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、外貨建ての営業債務について、通貨別月別に把握された為替の変動リスクに対して、原則として先物為替予約及び通貨オプションを利用してヘッジしております。なお、為替相場の状況により、輸入に係る予定取引により確実に発生すると見込まれる外貨建営業債務に対する先物為替予約及び通貨オプションを行っております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引については、取引権限や限度額等を定めた資金調達運用規程に基づき、経理担当部門が取引を行い、記帳及び契約先と残高照合等を行っております。月次の取引実績は、経営会議に報告しております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき財務担当部門が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性を高く維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(5) 信用リスクの集中

当連結会計年度の連結決算日現在における営業債権のうち39.6%が特定の大口顧客に対するものであります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2021年6月30日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（注2）を参照ください。）。

（単位：百万円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	6,181	6,181	—
(2) 受取手形及び売掛金	9,529	9,529	—
貸倒引当金（※1）	△0	△0	—
(3) 投資有価証券	680	680	—
資産計	16,390	16,390	—
(1) 支払手形及び買掛金	8,809	8,809	—
(2) 長期借入金	656	655	△0
負債計	9,465	9,464	△0
デリバティブ取引（※2）			
(1) ヘッジ会計が適用されていないもの（※2）	(1)	(1)	—
(2) ヘッジ会計が適用されているもの（※2）	346	346	—
デリバティブ取引計	344	344	—

（※1） 受取手形及び売掛金に対応する一般貸倒引当金を控除しております。

（※2） デリバティブ取引は、債権・債務を差し引きした合計を表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で表示しております。

（注1） 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 長期借入金

長期借入金の時価については、元金金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

なお、長期借入金には1年以内返済予定の長期借入金が含まれております。

デリバティブ取引

(1) ヘッジ会計が適用されていないもの

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。

通貨関連

(単位：百万円)

	種類	契約額等	契約額等のうち1年超	時価	評価損益
市場取引以外の取引	為替予約取引 買建 米ドル	1,423	—	13	13
	オプション取引 売建・買建 米ドル	44,847	31,685	△15	△15
	合計	46,270	31,685	△1	△1

- (注) 1. オプション取引はゼロコストオプションであり、コールオプション及びプットオプションが一体の契約のため、一括して記載しております。
2. 時価の算定方法
取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) ヘッジ会計が適用されているもの

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、ヘッジ会計の方法ごとの連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額等は、次のとおりであります。

通貨関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額	契約額のうち1年超	時価
原則的処理	為替予約取引 買建 米ドル	外貨建予定取引等の一部	—	—	—
	オプション取引 売建・買建 米ドル	外貨建予定取引等の一部	4,222	1,481	346
合計			4,222	1,481	346

- (注) 1. オプション取引はゼロコストオプションであり、コールオプション及びプットオプションが一体の契約のため、一括して記載しております。
2. 時価の算定方法
取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	連結貸借対照表計上額
非上場株式	43
非上場の関係会社株式	366
投資事業組合等の出資金	82
合計	492

- (注) 1. 非上場株式及び非上場の関係会社株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。
2. 投資事業組合等への出資金については、組合財産が非上場株式など時価を把握することが極めて困難と認められるもので構成されているため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

1 株当たり情報に関する注記

1. 1株当たり純資産額	2,248円87銭
2. 1株当たり当期純利益	105円55銭

(注) 株主資本において、自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、当連結会計年度の1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式数に含めており、また、当連結会計年度の1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式数に含めております。1株当たり当期純利益の算定上控除した当該自己株式の期中平均株式数は、当連結会計年度72,603株であり、1株当たり純資産額の算定上控除した当該自己株式の期末株式数は、当連結会計年度125,000株であります。

貸借対照表

(2021年6月30日現在)

(単位 百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	28,463	流 動 負 債	10,481
現金及び預金	4,925	支払手形	1,167
受取手形	93	買掛金	5,350
売掛金	8,344	1年内返済予定の長期借入金	375
商品及び製品	10,808	未払金	696
原材料及び貯蔵品	2,009	未払費用	673
前払費用	113	未払法人税等	289
関係会社短期貸付金	807	前受金	0
デリバティブ債権	412	預り金	16
未収入金	59	前受収益	1,797
その他の流動資産	889	デリバティブ債権	67
固 定 資 産	10,522	ポイント引当金	9
有形固定資産	6,265	その他の負債	38
建物	2,266	固 定 負 債	879
構築物	78	長期借入金	281
車両運搬具	5	役員退職慰労引当金	83
工具器具備品	191	リサイクル費用引当金	321
機械装置	71	製品保証引当金	71
土地	3,653	株式給付引当金	39
無形固定資産	801	資産除去債務	55
ソフトウェア	789	その他の負債	26
電話加入権	11	負 債 合 計	11,360
その他の資産	0	純 資 産 の 部	
投 資 其 他 の 資 産	3,455	株 主 資 本	27,154
投資有価証券	806	資本金	3,588
関係会社株	741	資本剰余金	4,642
関係会社出資	21	資本準備金	1,000
長期前払費用	29	その他の資本剰余金	3,642
繰延税金資産	1,652	利 益 剰 余 金	20,566
保険積立金	112	その他利益剰余金	20,566
その他の負債	81	固定資産圧縮積立金	255
貸倒引当金	26	別途積立金	18,900
	△15	繰越利益剰余金	1,411
		自己株式	△1,642
		評価・換算差額等	471
		その他の有価証券評価差額金	230
		繰延ヘッジ損益	240
資 産 合 計	38,986	純 資 産 合 計	27,625
		負 債 ・ 純 資 産 合 計	38,986

損益計算書

(自 2020年7月1日)
(至 2021年6月30日)

(単位 百万円)

売上		51,914
売上原価		42,818
売上総利益		9,096
販売費及び一般管理費		7,883
営業利益		1,212
営業外収益		
受取利息	12	
受取配当金	73	
仕入替割引益	36	
為替差益	375	
その他	109	607
営業外費用		
支払利息	1	
売上割引	124	
その他	2	128
経常利益		1,691
特別利益		
投資有価証券売却益	0	0
税引前当期純利益		1,692
法人税、住民税及び事業税	539	
法人税等調整額	△141	398
当期純利益		1,294

株主資本等変動計算書

(自 2020年 7月 1日)
(至 2021年 6月 30日)

(単位 百万円)

	株 主 資 本		
	資 本 金	資 本 剰 余 金	
		資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金
当 期 首 残 高	3,588	1,000	3,600
当 期 変 動 額			
剰 余 金 の 配 当	—	—	—
当 期 純 利 益	—	—	—
自 己 株 式 の 取 得	—	—	—
自 己 株 式 の 処 分	—	—	42
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金 の 取 崩	—	—	—
別 途 積 立 金 の 積 立	—	—	—
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	—	—	—
当 期 変 動 額 合 計	—	—	42
当 期 末 残 高	3,588	1,000	3,642

(単位 百万円)

	株 主 資 本				
	利 益 剰 余 金			自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
	そ の 他 利 益 剰 余 金				
	固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金		
当 期 首 残 高	255	17,400	1,986	△1,190	26,640
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当	—	—	△370	—	△370
当 期 純 利 益	—	—	1,294	—	1,294
自 己 株 式 の 取 得	—	—	—	△548	△548
自 己 株 式 の 処 分	—	—	—	95	138
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金 の 取 崩	△0	—	0	—	—
別 途 積 立 金 の 積 立	—	1,500	△1,500	—	—
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	—	—	—	—	—
当 期 変 動 額 合 計	△0	1,500	△575	△452	514
当 期 末 残 高	255	18,900	1,411	△1,642	27,154

(単位 百万円)

	評価・換算差額等	
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益
当 期 首 残 高	187	227
当 期 変 動 額	—	—
剰 余 金 の 配 当	—	—
当 期 純 利 益	—	—
自 己 株 式 の 取 得	—	—
自 己 株 式 の 処 分	—	—
固定資産圧縮積立金の取崩	—	—
別 途 積 立 金 の 積 立	—	—
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	43	13
当 期 変 動 額 合 計	43	13
当 期 末 残 高	230	240

個別注記表

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法
その他有価証券
時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
時価のないもの 移動平均法による原価法
2. デリバティブの評価基準及び評価方法 時価法
3. たな卸資産の評価基準及び評価方法
商品・製品 総平均法による原価法
仕掛品・原材料 (貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)
4. 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産 (リース資産を除く)
定率法
ただし、1998年4月1日以降に取得した建物 (建物附属設備を除く) 並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。
なお、主な資産の耐用年数は下記のとおりであります。
建物 5～50年
工具器具備品 2～20年
無形固定資産 (リース資産を除く)
定額法
なお、主な資産の耐用年数は下記のとおりであります。
自社利用のソフトウェア 3～5年
5. 外貨建資産又は負債の本邦通貨への換算基準
外貨建金銭債権債務は、期末日の直物等為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6. 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

ポイント引当金

顧客に付与したポイントの将来の利用に備えるため、当事業年度末における将来利用見込額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、役員退職慰労金内規に基づく要支給額を計上しております。

なお、2005年9月28日開催の定時株主総会終結の時をもって、役員退職慰労金制度を廃止し、同日までの役員の在任期間に対する退職慰労金を支給することとしております。これにより同日以降の役員退職慰労引当金の繰入は行っておりません。

リサイクル費用引当金

リサイクル対象製品等の回収及び再資源化の支出に備えるため、売上台数を基準として支出見込額を計上しております。

製品保証引当金

製品販売後に発生する保証修理費用に備えるため、過去の実績に基づき発生見込額を計上しております。

株式給付引当金

株式給付規程に基づく従業員の当社株式の給付に備えるため、当事業年度末における株式給付債務の見込額に基づき株式給付引当金を計上しております。

7. 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

通貨オプション、為替予約に係る評価損益は、繰延ヘッジ処理によっております。

ヘッジ手段

通貨オプション、為替予約

ヘッジ対象

外貨建予定仕入取引の一部

ヘッジ方針

取引権限及び取引限度額等を定めた社内ルールに基づき、外貨建取引の為替変動によるリスクの軽減・相殺を目的として、ヘッジを行うことを原則としております。

なお、取引の契約先は信用度の高い銀行等に限定されており、相手先の契約不履行によるリスクはほとんどないと判断しております。

8. 消費税等（消費税及び地方消費税）の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

表示方法の変更に関する注記

(「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当事業年度の計算書類から適用し、計算書類に重要な会計上の見積りに関する注記を記載しております。

重要な会計上の見積りに関する注記

(たな卸資産評価損)

(1)当事業年度の計算書類に計上した金額

売上原価に含まれるたな卸資産評価損 504百万円

(2)計算書類利用者の理解に資するその他の情報

連結注記表「会計上の見積りに関する注記」に記載しているため、注記を省略しております。

(繰延税金資産の回収可能性)

(1)当事業年度の計算書類に計上した金額

繰延税金資産 1,652百万円

(2)計算書類利用者の理解に資するその他の情報

連結注記表「会計上の見積りに関する注記」に記載しているため、注記を省略しております。

追加情報

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、当社の中長期的な企業価値を高めることを目的として、従業員に信託を通じて自社の株式を交付する取引を行っております。

1.取引の概要

2020年11月に中長期的な企業価値を高めることを目的として、従業員を対象としたインセンティブ・プラン「従業員向け株式報酬制度」(以下「本制度」という。)を導入いたしました。

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として信託を設定し、信託が当社普通株式(以下「当社株式」という。)の取得を行い、従業員のうち一定の要件を充足する者に対して、信託を通じて当社株式を交付する従業員向けインセンティブ・プランであります。なお、信託による当社株式の取得資金は、全額当社が拠出するため、従業員の負担はありません。

2.信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、当事業年度末134百万円、125,000株であります。

3.総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

該当事項はありません。

貸借対照表に関する注記

1. 関係会社に対する短期金銭債権	63百万円
関係会社に対する短期金銭債務	2,818百万円
2. 有形固定資産の減価償却累計額	4,151百万円
3. 保証債務	
子会社の仕入債務について、保証を行っております。	
国際艾歐資訊股份有限公司	1,585百万円
	(外貨建1,435万米ドル)

損益計算書に関する注記

1. 関係会社に対する売上高	12百万円
関係会社に対する仕入高等	26,671百万円
関係会社に対する営業取引以外の取引高	70百万円
2. 一般管理費に含まれる研究開発費	1,135百万円

株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式 (株)	1,607,511	525,020	129,200	2,003,331

(注) 1. 自己株式の増加525,020株は、自己株式の取得による増加400,000株、「従業員向け株式報酬制度」導入に伴う当該信託が保有する当社株式による増加125,000株、単元未満株式の買取による増加20株であります。

2. 自己株式の減少129,200株は、「従業員向け株式報酬制度」導入に伴う当該信託への自己株式の売却による減少125,000株、「譲渡制限付株式報酬制度」導入に伴う対象者への割当てによる減少4,200株であります。

3. 当事業年度末の自己株式数には、信託が保有する自社の株式数が125,000株含まれております。

税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

繰延税金資産

たな卸資産評価損	263百万円
売上値引	335百万円
未払費用	140百万円
減価償却限度超過額	398百万円
保証修理費	196百万円
役員退職慰労引当金	25百万円
関係会社株式評価損	47百万円
リサイクル費用引当金	97百万円
製品保証引当金	21百万円
その他	897百万円
繰延税金資産小計	2,425百万円
評価性引当額	△451百万円
繰延税金資産合計	1,973百万円

繰延税金負債

繰延ヘッジ利益	△105百万円
固定資産圧縮積立金	△111百万円
その他有価証券評価差額金	△94百万円
その他	△10百万円
繰延税金負債合計	△321百万円
繰延税金資産の純額	1,652百万円

関連当事者との取引に関する注記

関連当事者との取引

- (1) 親会社及び法人主要株主等
該当事項はありません。

- (2) 子会社及び関連会社等

属性	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	国際艾歐資訊股份有限公司	100.0	当社製品の部品 調達及び当社製 品の一部販売 役員の兼任	原材料の購入	23,487	買掛金	2,399
				仕入債務に対する 債務保証	1,585	—	—
				資金の貸付	774	関係会社 短期貸付金	774

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 原材料の購入については、価格その他の取引条件は市場実勢を勘案し、価格交渉の上決定しております。
2. 仕入債務に対する債務保証については、期末残高を記載しております。なお、当該債務保証に対する保証料の授受はありません。
3. 資金の貸付については、市場金利等を勘案して利率を決定しております。
4. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
- (3) 兄弟会社等
該当事項はありません。
- (4) 役員及び個人主要株主等
該当事項はありません。

1 株当たり情報に関する注記

1. 1株当たり純資産額	2,152円22銭
2. 1株当たり当期純利益	99円01銭

(注) 株主資本において、自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、当事業年度の1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式数に含めており、また、当事業年度の1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式数に含めております。1株当たり当期純利益の算定上控除した当該自己株式の期中平均株式数は、当事業年度72,603株であり、1株当たり純資産額の算定上控除した当該自己株式の期末株式数は、当事業年度125,000株であります。